

令和2年度（第3回①）社会教育委員会議 会議録

- 1 開催日時 令和2年10月1日（木） 10時00分～11時15分
 - 2 開催場所 野口公民館
 - 3 出席委員 川尻委員、佐伯委員、徳田委員、鹿多委員（4名）
 - 4 欠席委員 0名
 - 5 出席職員 小南教育長、神吉教育指導部参事、野口公民館（田中事業担当）、社会教育・スポーツ振興課（岡本副課長、藤本主事）
 - 6 傍聴者 0名
 - 7 議事要旨
- 開会 10時00分

（協議事項）

加古川市立公民館の今後のあり方について

（野口公民館より事業概要等について説明・事業及び施設見学）

委員

おやこひろばについて、来たい時に来ることができるというのは非常に良い。参加人数を確保しようと無理なことをすると、長続きしない。子どもは自由に遊び、親にとってはリラックスできる場であり、情報交換の場にもなっている。今後、幅広い世代に公民館を利用してもらうことが課題。現状、中学生はトライやるウィークでの利用程度であり、高校生はほぼ利用していないのではないかと思う。10代の子を今後どのように引きつけるかが必要になってくるのではないかと考える。明石市ではコミュニティセンターが学校の敷地内にあり、中学生と一般市民が入り混じっているのが良いと感じる。中・高生が自由に使える場になれば利用者の幅が広がるのではないかと思う。

委員

おやこひろばについて、アットホームな良い空間だと感じた。常連の方が多く、家族のような関係が作られているのは良いが、その半面、新規の方が入りにくい雰囲気になっているようにも感じた。密な状態になってしまうという点が心配ではあるが、今後も続けてほしい事業だと思う。普段は会議に出席するため、夜間に公民館を訪れることが多いが、日中には夜間とはまた違った活動をしている団体があるということに感心した。野口公民館は、他の公民館に比べ、成人の利用者が多いが、どのような活動をしているのか。

野口公民館

主催事業としては、特に成人年齢を対象としているものが多いという意識はないが、吹奏楽等の音楽活動に参加している方の年齢層が幅広いと思う。

委員

おやこひろばの参加者が、毎日家にいると息が詰まるが、おやこひろばでは伸び伸びと過ごすことができると言っていたのが印象的であった。日頃から公民館を利用する機会はあるが、活動が終わればすぐに帰ってしまっていたため、公民館の裏のバラ園等に気づくことがなかった。そのため、公民館を散策できるような案内があれば良いと思う。公民館の活動の案内についても、目につく機会が少ないため、発信の方法が大切だと感じた。子育てひろばの自主サークルの方が、公民館で活動している例をあまり聞かないので、公民館も使えるということを周知すれば、利用者の幅も広がるのではないかと思う。ただし、エレベーターがない、子どもと一緒にトイレの利用が不便等、ハード面での見直しは必要

だと考える。東加古川公民館の移設（複合化）は、公民館の次のあり方として、楽しみである。

委員

高齢者大学に参加させてもらう機会があるが、その際に、利用者から発信されるパワーは素晴らしいと感じた。公民館を利用している団体の歌が聞こえてくる中で、公民館の花壇を眺めるのは、ほっとする一面だと思う。そのような中で、ふるさと・地域・仲間の大切さを受け止められると良い。他市町の公民館と比べても、加古川市の公民館は市民にとっても大切な場所となっており、多くの人が入り出してくれている。今後、公民館の活動を知らないという方を少しでも減らしていけたら良いと思う。おやこひろばについて、豊の上で、他の親子もいる中でのコミュニケーションは大切だと思う。子育てひろばの団体も含め、公民館での交流が増えれば、また別の形での子育てというものができるのではないかと思う。

委員

子どもたちが外でも遊べる空間があれば良いと思う。

委員

外で遊ぶことで、外部への啓発にもなると思う。

委員

花壇を目にすることで、花の世話等に協力してくれる方も出てくるかもしれない。野口公民館は他の公民館と比べても、咲いている花の種類も豊富だと思う。

（その他）

特になし

○ 閉会 11時15分

以上